

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190500035		
法人名	医療法人小島医院		
事業所名	グループホームげんき		
所在地	佐賀県伊万里市波多津町辻5454番地		
自己評価作成日	平成29年10月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成29年11月8日	外部評価確定日	平成29年11月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・月2回の音楽療法の実施。 ・入居者の方は町内の方達ばかりであり、施設周囲の散策や地域行事への参加、隣接するデイサービスへの訪問により地域との関わりを絶やさないこと。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>理念に「優しく、笑顔で、和やかに」と謳っているように、利用者のペースに合わせてながら、利用者自身に選択してもらうためにも、職員は待つ姿勢のケアを実践している。利用者との会話も、聞き取りやすいようにゆっくりと穏かである。職員同士にはお互い様という考えがあり、互いを認め合いながらフォローし合っている。また、事業所内の掃除やリネンの洗濯がそれぞれの業者に任せてあること、食事は隣接する施設から届けられること等が利用者と同じく時間増に繋がっている。極めて近い所に母体病院があることや、看護師が毎日(日曜以外)訪れることも健康面や医療面への大きな安心となっている。</p>

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「優しく・笑顔で・和やかに」を基本理念とし、事業所内に掲示し、利用者様にも職員も優しく、笑顔で和やかになれる介護を目指して個別に関わりを行っている。	理念は、開設当時の職員達によって創られたものである。リビングの目に付く場所に掲示され、意識付けを図っている。独自に行っている接遇研修でも再確認の意味を込めて取り上げている。日々のケアの中で利用者との穏かな接し方や声の掛け方等にはそれが活かされているのがうかがえる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設周囲を散歩される方や、近所の方達との会話や交流を行ったり、地域の方にいつでも訪問していただけるような声掛けを行っている。地域の祭りや行事などにも参加し、交流を行っている。	自治会への加入はしておらず回覧板等は回って来ないが、地域の情報は欠けることなく届いている。隣接する同法人施設との交流や、利用者が地元の方達であること等がその助けとなっている。今後の試みとして、事業所の行事には家族だけではなく地域の人々にも声を掛けてみることや、清掃活動等へも積極的に参加していただく等々を挙げている。近隣住民とは日頃から挨拶を交わし、緊急時の一斉連絡網への登録も理解と協力を得ている。見守り等を頼める関係は築けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、認知症について理解を深めてもらえるように、認知症について話す機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施しており、状況報告や意見交換を行い、サービスの向上につながるように努めている。	会議は18時半から約30分間、事業所からの報告で終始することなくメンバーの話にも耳を傾け、有意義な意見交換の場となっている。市担当者は代理となっても必ず出席者を出している。看取りに関して話題となった際には、メンバーの意見が役に立ち、利用者や家族の想いに立ち戻るきっかけとなっている。会議には本人や家族の出席もお願いしているが、現在は固定されたままである。運営推進会議を外部の人の目が入る貴重な機会と捉え、そこでの意見が反映できるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時、地域包括支援センターの職員の方に日常の報告をすると共に、相談を行っている。その他にも疑問な点があれば、担当者へ連絡し確認をとっている。	市担当者は運営推進会議メンバーでもあり日頃から顔見知りである。また、管理者は隣接するデイサービス施設と兼務のため、福祉関係部署と接する機会も多い。相談ごとや質問などにはまず電話での問い合わせになるが、実直に対応してもらえる関係は築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修への参加を行い、研修報告により職員への周知を行い、理解を深めている。日頃のケアについても気づきなどがあれば、お互いに意見交換を行っている。夜間以外は玄関の施錠はせず、利用者様の自由を奪わず、かつ安全な生活ができるよう支援を行っている。	年一回は外部研修に参加し、月に一度の勉強会(職員会議とは別)でも身体拘束について取り上げることがある。職員は身体拘束の内容とその弊害についても理解している。仮に不適切なケアが見られた場合、全体のこととして注意喚起し、改善を図ることになっている。その時、その場所を基本としているが、申し送りノートに記すこともある。日中、玄関の施錠はしておらず、センサーによってチャイムは鳴るが来客時も同様である。職員は必ず確認に動き、目配りと連携で安全な暮らしを確保している。もし外へ向かう利用者があれば暫く一緒に歩き、無理に引き返すことはない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修へ参加し、研修報告により職員への周知を行い、理解を深めている。虐待をしない、させない、見逃さないための取り組みを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様には、一人暮らしだった方がおられることから、成年後見制度を使うことも考えられるため、包括の担当者への相談も検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、家族様へしっかりと説明を行い、納得された上で契約を行っている。質問がある時にはいつでも相談できることを伝え、契約書には相談窓口と担当者を明記している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様や家族様の意見には常に耳を傾け、相談に応じている。運営推進会議には家族様に参加いただき、家族様の意見発表の機会を設け、運営に反映するよう努力している。	毎月の利用料支払いを敢えて持参としているため来所も多い。家族が訪れた時には、世間話なども含め何でも気軽に話してもらえよう努めている。あまり会えない家族とは電話等での報告を行い、要望を聞き取るようにしている。最近では、義歯が合わなくなったことから食事の摂取方法や誤嚥の危惧等を説明し、家族の考えを聞いている。また、事業所の外に苦情や相談の窓口があることも書類に明記され説明も行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の業務会議を設け、職員の意見交換を行っている。また、申し送りノートを活用し、それぞれに気付きや意見を書き出し、検討を行っている。	月一回の職員会議は16時から約一時間、これには休みの職員も出席している。限られた時間をスムーズに進めるための工夫もある。レジュメ準備や考えをまとめておくために内容の事前周知、また連絡ノートを活用した現場からの提案等がそれである。些細な気付きでも職場環境の改善に繋がることもある。職員には自由な発言を促し、コミュニケーションも大切にしている。管理者としては働き易い職場であるよう配慮も必要だが、自身が兼務であるため不在も多く、法人としての難点となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の代表者へ職員の評価表を提出しており、評価表を参考資料として、給与、職場環境、条件等を話し合う機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に積極的に参加し、その研修報告会、もしくは回覧にて情報を共有し、職員のスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会主催の研修会に参加し、他事業者との交流を図っている。その場で行った意見交換の内容を参考にし、サービスの質の向上につなげることができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け、少しでも安心して過ごしていただけるよう関わりを持つようになっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け、安心してご利用していただけるよう努め、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様や家族様と話し合いを行い、必要とされる支援を把握し、まずは安心して過ごしていただけるよう環境を作り、支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中で、共に支え合う気持ちを持ち、交流を深め、信頼関係を築けるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等を開催する際は、家族様への参加を呼びかけ、一緒に支援し、楽しんで頂けるよう心掛けている。他科受診などの際には、家族様へ受診の介助をお願いするなど、支援の協力を求めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様は全員が地元の方たちであるため、隣接するデイサービスに行き交流を行ったり、近所の散歩やスーパーへ出かけ買い物をすることにより、人や場との関わりを継続を行っている。	入居までの人間関係は本人や家族、担当のケアマネジャー、場合によっては入院先の病院や医師からも話を聞き情報を集めている。殆どが隣接するデイサービス施設を利用していたため法人内での共有もできている。具体的な支援としては電話の取次ぎや年賀状の手伝い、馴染みの美容院へ通うことなどである。歳を重ねるごとに体力の低下もあり、お盆やお正月の帰宅は難しくなっているが、時折、仏壇へのお参りを口にされると自宅へ同行することもある。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が昔からの知人である方が多く、共通の話題により関係性を深めることができるように支援を行っている。また、苦手意識のある方達には、職員が間に入り支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院となられた方への面会に行きお話を伺ったり、家族様ともお話しをするなどし、状況の確認を行い相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様との日々の会話の中から、本人の思いや意向をくみ取り把握するように努めている。困難な場合は、本人本位に検討するように努めている。	利用者が想いを話してくれることがある。それは傍らに座り、話し相手をしている時が多い。聞き取ったことは申し送りノートや個別記録簿に記し、職員間の共有を図っている。利用者と接する時に心掛けていることは待つ姿勢である。自己決定をしやすい言葉掛けによって想いを引き出し、ケアプランにも反映できればと努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様や家族様とのお話しにより情報を得たり、入居以前の介護サービス情報を得るなどし、その方の暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の一日の様子を観察し、現状を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議を開催し、多角的視点よりモニタリングを行っている。それぞれの意見やアイデアを検討し、現状に即した介護計画となるよう努めている。	ケアプランの設定期間は6ヵ月ごとだが、変化があれば臨機応変に見直しを行っている。本人の想いは日々の関わりの中で把握し、家族の要望等は来所時に聞き取るようとしている。中でも残存能力の維持を願う家族は多い。サービス担当者会議への同席もあり、当外部評価の事前アンケートでは「ケアプランを分かり易く説明され一緒に内容に関する話し合いをしている」との回答が殆どである。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の経過記録を日々記入し、情報を共有している。また、提案や気づきがあれば申し送りノートに記載し、ケアに反映できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様や家族様の状況や要望に応えることが出来るよう、柔軟な対応を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元やデイサービスの行事にはできる限り参加していただけるよう努めている。また、日頃もデイサービスに知人等がご利用の際には訪問し、会話を楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様は全員入居以前より小島医院を主治医とされており、定期的に往診を受けている。必要時は他科受診をされている。	母体病院の患者であったため医師とも長い付き合いである。これまでの病歴や経過を承知しており、事業所からも極めて近い位置にある。日曜以外の毎日、看護師が訪れることも心強い。他の診療科目で受診の際は家族による付き添いが基本である。その場合、利用者の日常の様子等はメモや口頭を介し先方の医療者に伝えられている。また、職員が付き添った時の結果報告は当日中に行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の変化については、随時看護師へ報告を行い、適切な看護を受けられるよう支援を行っている。また、往診時には、看護師が医師に向けて情報提供書を作成し、適切でスムーズな対応が出来るよう支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、職員が付き添い基本情報等の伝達を行う。また、書面にも情報を病院へ提供している。入院中も医療連携室などとの連絡を取り、情報の交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、看取りに関する当施設の指針を説明し、家族様や本人様の意向を伺っている。本人様や家族様が看取りを望まれる場合には、同意を得た上で実施を検討していくものとしている。	これまでに看取りの経験はない。今後、希望があればそうしたいと考えている。職員の力量や体制を考慮しつつ、クリアすべき課題もある中での判断である。本人や家族は容態の変化に伴い想いも揺れ動くものである。それを踏まえ、何度でも話し合いを重ねながら、安心して納得した最期を迎えられるよう支援したいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の対応についてマニュアルを作成し、情報を共有している。また、心肺蘇生法の研修を年1回は実施するように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策においては、勉強会を実施し、避難方法を学習している。火災訓練においては、避難訓練を年2回実施し、そのうち1回は消防署員の立ち合いにより実施するなどし、避難方法の周知を図っている。また、今年度の訓練で、地域の協力を得た訓練を実施する予定である。	独自に行う避難訓練は昼間帯に実施され、夜間は想定のみである。利用者も一緒に避難を体験しており、職員は消火器の使い方も承知している。非常食や水、寒さを凌げる物の備蓄もある。火災通報装置の任意登録者の中には近隣住民がおり、協力が得られている。また、実際の夜間に職員だけで避難経路の確認や、暗さを体験してみることも検討中である。	外部の応援者が介助の度合いを知る方法や、退室済みの合図をどうするか課題が残る。現時点で実際に火災通報装置を使用した経験がなく、全職員に浸透することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳ある関わりを心掛け、言葉かけなどには配慮を行い、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をするよう努めている。	入浴やトイレ介助は最もプライバシーへの配慮を要する場面である。トイレのドアは必ず閉める、周囲に聞こえるような大きな声での誘導はしない等々、ごく自然な支援が行われている。もし不適切なケアがあれば、6(5)項目と同様に対処することとしている。また、個人情報の取扱いに対する職員の意識は高く、入居時の「個人情報使用同意書」により承諾も得ている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で、利用者様が自己決定をしやすいような言葉かけを行うように努めている。ご自身で決定されたことは尊重し、希望に沿った支援が行えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員中心でなく、利用者様一人ひとりのペースを尊重し、出来る限りその方の希望にそって支援を行うよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の馴染まれた望まれる服装となるよう心掛けている。身だしなみでは、きちんと整容されるよう支援を行っている。散髪は、定期的な訪問美容を利用したり、行きつけの美容室を利用されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は、デイサービスの厨房に依頼している。アレルギーへの対応は出来ているが、デイサービスとの同じメニューのため、嗜好への対応はあまりできていない。しかし、外食やおやつ作りの時には、利用者様の望まれる物が選択できるよう支援を行っている。日々の配膳時は、一緒に準備や片付けをするよう努めている。	事業所では主食の炊飯のみで、主菜などは隣接する施設から届けられている。利用者に食べたいものを尋ね、それを提供するには少なくとも一週間は掛かる。自己評価でも反省が記されている通りである。利用者に食欲はあり、職員に促されることもあるが、殆どは自分で口へ運んでいる。食事の形状や、持ちやすく軽い食器にも配慮がうかがえる。利用者はその日の献立なども話題にしながら和やかな食事風景である。検食者のみが同じものを食べ、他の職員は介助のために同席している。誕生日には手作りケーキが用意され、必ず当日に祝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の状態に応じて、量や食事形態を変え提供している。水分は定時間ごとに提供し、摂取していただいている。食事量や水分量は随時確認し、チェック表に記入し、全職員が確認できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアを実施し、介助の必要な方は支援を行っている。また、夜間は洗浄剤を使用し、衛生管理を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表に排泄の記入をし、確認を行い、排泄の声掛け等を行っている。夜間はポータブルトイレやオムツを使用されている方も、日中はトイレでの排泄をしていただくよう支援を行っている。	日中は全員がトイレでの排泄を主としている。自立している利用者も若干名いるが、任せたままでなく、さり気ない見守りを行っている。チェック表があることで予想ができ、スムーズな誘導に繋がっている。入居後にオムツからリハビリパンツへと改善した例もある。オムツ類の使用が減る事は自己負担の軽減にも繋がっている。トイレ内には便座の両脇に可動式ひじ掛けが設置され、体位の保持や自立を促す補助具としても役立っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維や水分を必要量摂取いただくよう努めたり、室内での運動や散歩をしていただくよう心掛けている。また、身体的な理由で便秘傾向にある方には、処方された便秘薬を使用している。排便のチェックを行い、必要時は便秘薬を使用し、定期的な排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は、おおよそ週に3回程度の支援を行っているが、必要に応じて個々に応じた支援を行うよう心掛けている。	入浴は火・金以外の5日間を用意している。その中で週2回を目途に支援しているが、希望があればその限りではない。拒む方も多く、タイミングや誘導を工夫しながら対応している。入浴しない日でも着替えは毎日、清潔に過ごせるよう心掛けている。脱衣場には安定感のある木製ベンチが置かれ、浴槽は両側から介助できる設えになっている。冬場は温風ヒーターで脱衣場から浴室まで暖め、ヒートショック対策にも配慮している。衣服の脱ぎ着はできるだけ本人に任せ、見守りながらのケアである。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のリズムに合わせて、休息いただいている。日中は、なるべく活動することにより、夜間は良眠できるよう声掛けと支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時などは、申し送りにより情報を共有している。薬の情報は、個人カルテに記載し、いつでも確認できるようにしている。日々状態の観察を行っており、変化があった際には看護師や医師に相談を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗いや洗濯物干しや洗濯物たたみなどの家事を一緒に行ったり、利用者様の望む活動(塗り絵や貼り絵、読書など)やドライブに行くなどし、気分転換等の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日には、近所の散歩やデイサービスへの訪問を行っている。また、希望の場所へのドライブや買い物の支援を行うよう努めている。	事業所周辺の散歩は日常的に行っている。職員が車椅子を押せば、それを杖代わりにゆっくりと同行する利用者もある。テレビ等からの情報に興味を示す利用者や、本人の口から外出の希望が聞かれることもある。殆どの利用者は立位が保てるため、一般車両の座席へ移乗することも難しくはない。天候や体調をみながら、その日に決めて出掛けることもある。職員は、外出が五感を刺激し日差しを浴びることのメリットも承知している。全く外へ出ないという利用者はいない。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は、施設にて管理を行っているが、ご自身でも所持されている方もいる。外出時や希望時にはご自身でお金を使用いただけるよう支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望時には、電話使用の支援を行っている。手紙のやり取りを希望される方はあまりなく、年賀状などを出すなどし、家族様への関わりを持っていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様に気持ちよく過ごしていただけるよう、温度や湿度、光などに配慮を行っている。また、季節ごとに作品と一緒に作り掲示するなどし、季節感を感じていただけるよう支援している。	事業所内の窓やサッシ戸は全て二重ガラスで、冷暖房による室内温度も保ちやすく、結露対策にもなっている。また、リビングはカーテンではなく障子を使っており、慣れ親しんだ雰囲気を感じられる。畳を置いた可動式台を組み合わせることでコーナーに和室を設えている。ソファも用意されているが、利用者は横にもなれる畳の上で自由に寛いでいる。廊下に歩行を妨げる物はなく、玄関にさりげなく置かれた椅子は靴を履く時の助けとなっている。日曜以外の毎日、母体病院を清掃するスタッフによって事業所内も行われ、嫌な臭気もない。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはソファや畳の間があり、利用者様の望まれる場所でゆったり過ごしていたり、会話を楽しんでいたたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやベッドは、施設にて準備し設置しているが、その他にも本人様の使い慣れたものや必要な物があれば、自由に置いていただいている。	居室に持ち込む品物は、火気等の危険物以外に制限はしていない。家具類の配置や飾り方は本人と話しながら決めている。家族が飾っていくこともある。居室には2種類あり、和室では直に座って話せると好評を得ている。洋室にはベッドの他に畳を置いた可動式台も備えている。どちらも家族の希望があれば宿泊は可能である。衣替え等も担当の職員が心掛けており、細かな支援となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口にはお名前を、トイレには「お手洗い」の掲示をし、各部屋との違いを理解していただけるよう努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない